

建築設備事業



2024年4月1日付で建築設備事業本部長に就任しました。入社以来、全国の建築設備事業のプロジェクトを数多く担当してきました。営業・設計・施工の業務を通して、お客さまとの関係強化を図りながら信頼関係を構築してきました。2019年からは建築設備事業全体の方向性に注視していく中で、全国の各拠点の事業運営に横ぐしを刺すべく部門横断的な事業運営を推進し、各拠点が共通認識を持って先進的な事業活動に取り組める強固な組織体制を築いてきました。三機工業グループが「選ばれ」続けるために、その核となる建築設備事業は協力会社との結びつきを強く意識しつつ、社会のニーズに将来にわたって応えていきたいと考えています。そして、建築設備事業の一人ひとりが環境の専門家としての意識と使命感を持って対応することで、社会全体のサステナビリティに貢献していきます。

2023年度は豊富な繰越工事が進捗したことや、資材や労務費の高騰など多くの利益圧迫要因がある中で実行した利益率改善の努力が実を結び、売上・利益は高水準で推移しました。受注に関しては、2024年度への繰越工事の量、協力会社の繁忙状況等、全体のバランスを考えながら営業活動を行ったことで将来につながる受注量を確保できたと考えています。

取締役 専務執行役員 建築設備事業本部長

新保 順一

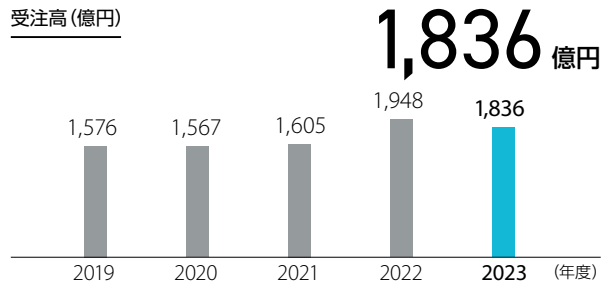
売上高構成比率

82%

2023年度
売上高
1,825億円

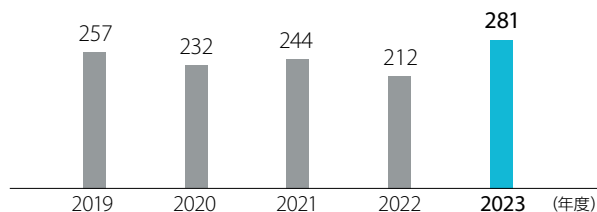
* ファシリティシステム事業部の業績を含みます

受注高(億円)

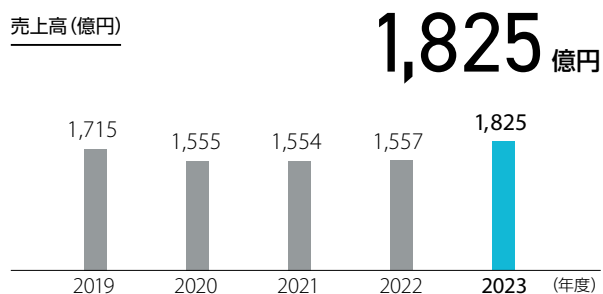


売上総利益(億円)

281億円



売上高(億円)



事業環境における リスクや機会

- 脱炭素社会の実現に向けた環境配慮型設備の需要増
- 半導体・EV電池などの製造設備、データセンター投資の拡大
- 首都圏や地方中核都市における再開発の継続・拡大
- 為替変動や地政学リスク等を背景とした資材費の上昇
- 働き方改革や人手不足による労務費の上昇
- 案件の大型化による協力会社を含めた要員不足、専門工事会社の不足

中期経営計画
“Century 2025”
Phase3に基づく
重点施策

事業基盤強化のための重点施策

重点施策 1 施工品質の向上

全社的な施工の分業体制の強化と、安全衛生協力会と一体となった労働安全衛生の推進による施工品質の向上

重点施策 2 生産性の向上

スマイル・サイト・プラン推進や施工管理DXの推進による現場担当者の負担軽減と業務効率化、人材育成による技術力の継承と生産性の向上

重点施策 3 競争力の強化

営業支援システムによる顧客ニーズの明確化と情報共有での確に対応、資機材調達情報収集によるコストおよび納期管理の徹底、R&Dセンターと連携した技術開発の取り組みによる競争力の強化

2023年度の主な成果

- 将来の成長につながる半導体やEV電池製造施設向け案件に注力し、受注・売上ともに好調に進捗。
- お客様のCO₂排出量削減に貢献する「SANKI YOUエコ貢献ポイント」制度推進の一環として、省エネルギー技術の活用提案に注力し、205件採用。
- 機械システム事業の技術と融合し、建築現場の省力化を目指したロボット技術の開発を推進。
- 半導体クリーンルームやEV電池製造施設向け超低露点室の開発を促進。
- 2024年度の改正労働基準法適用に向けて、スマイル・サイト・プランを推進し、全社的な連携体制による職務分掌や業務区分の見直しを実施。さらにDXを活用した現場業務の効率化を推進。
- 施工中トラブル・クレームの防止とともに、施工後の発生について現場へ周知して対策を講じ、設計計画の段階から防止策を検討した結果、売上高に対する発生率が減少。発生したトラブルは技術管理本部が要因を分析し、再発防止策を展開。
- 2022年度に導入した営業支援システムを活用した営業情報の一元化、営業活動の進捗やプロセスの可視化を推進し、営業活動を強化。
- 設計・施工業務の生産性・品質向上を目的としたBIMの活用促進に向け、社内教育を各支社・支店で推進、またBIM対応現場の採用を拡大。

主な施工実績

- ▶ 株式会社豊田自動織機 石浜工場E02工場新築工事
- ▶ SUMCO TECHXIV 長崎工場N6増築棟6階実装工事
- ▶ 株式会社ドーコン 本社社屋新築工事
- ▶ 国立研究開発法人理化学研究所 脳科学中央研究棟改修3期機械設備工事
- ▶ 茨木市民会館跡地エリア整備事業
- ▶ フェニテックセミコンダクター株式会社 鹿児島工場5号館3階クリーンルーム化工事
- ▶ ほくほく札幌ビル新築工事



Phase3達成に向けた事業の進捗と今後の見通し

スマイル・サイト・プランの推進を通じた
働き方改革の継続

人手不足の慢性化が進む中、2024年4月に適用された改正労働基準法に対応すべく、「スマイル・サイト・プラン」を継続し、協力会社を含めた現場の働き方改革のさらなる推進を図ります。ICTツールの積極活用やデジタル改革を通じて施工品質と生産性の向上を図るとともに、計画的な要員配置を通じて業務負担低減につなげ、法の遵守と円滑な工事施工の両立を目指します。

事業本部体制の確立による
競争力強化

2024年4月、各支社支店の設計部門を統括する設計本部を設置しました。顧客や社内のシンクタンクとして技術の中心的役割を担うとともに、全国の設計部門レベルの向上を図り、大型物件と特殊物件への対応を推進することで競争力強化を目指します。省エネルギーに特化したエネルギーソリューションセンターを設計本部へ移管し、建築設備設計と一体となった省エネルギー提案を推進します。

カーボンニュートラルに寄与する提案と
技術開発のさらなる推進

「SANKI YOUエコ貢献ポイント」制度を通じた社会全体のカーボンニュートラルへの貢献を念頭に、お客様への省エネルギー改修・運用の提案に継続的に取り組みます。

成長産業である半導体クリーンルームやEV電池製造施設向け超低露点室に最適な空調システムの開発などをお客様へ提供することにより、未来につながる先端分野の技術開拓・蓄積を進めていきます。

施工品質、安全性、労働力の
確保を通じた信頼性の向上

「選ばれ続ける会社」の実現に向けて、信頼性に直結する施工品質の維持・向上やトラブル・クレーム削減、災害防止を継続的に取り組むべき重要な課題として認識しています。円滑かつ質の高い施工の提供によって信頼性とブランド力の向上を図るとともに、安全や品質、労働力の確保にも、協力会社と一体となって取り組み、三機工業グループ全体の信頼性向上につなげていきます。

Focus

自然環境に配慮し、安心・安全も確保

未来医療国際拠点の衛生設備を施工

“最先端”の先にある未来医療の産業化と、その提供による国際貢献を目指す未来医療国際拠点「Nakanoshima Qross」が2024年6月に大阪市北区中之島に誕生。当社は建物全体の衛生設備施工を担当しました。再生医療にかかわる企業や産学医が連携したスタートアップ企業が集積する「未来医療R&Dセンター」や、病院・診療所などの医療機関が入居する「未来医療MEDセンター」、「中之島国際フォーラム」といったさまざまな施設で構成され、それぞれの施設用途に合わせた給排水系統の構築と、病院内の動線確保や衛生器具の適正配置に対する施工が求められました。

給水設備は、水資源の節約と効率的な利用を図るなど環境保全にも配慮した設備を施工。また災害時などのライフライン途絶に対応すべく、およそ72時間分の上水と雑用水を貯水できる仕様とするほか、実験排水の処理のため、排水設備にはpH値を調整する中和装置を導入しました。今後も当社は歴史に名を刻むような重要拠点において、その目的に合った最新の設備はもちろん、自然環境に配慮し、安心・安全を確保する設備を構築していきます。

